<table>
<tr><td colspan="2">分科会名</td><td>第３分科会</td></tr>
<tr><td colspan="2">研究主題</td><td>児童生徒が安全・安心な学校生活を送ることのできる環境整備に係る取組
～防災体制づくりの視点を通して～</td></tr>
<tr><td colspan="2">提言者</td><td>所属：佐賀市地区教頭会　　学校名　佐賀市立西川副小学校
氏名：中島　浩貴</td></tr>
<tr><td>紙面協議のまとめ</td><td colspan="2">【発表内容についての所感】
○今回、佐賀市支部研修部で協議する中で、佐賀市の現状として以下のようなことが浮き彫りになった。
①　佐賀市は災害の少ない地域であったため、学校と地域で連携した防災計画が作成されているところが少ない。
②　平成の大合併により、山間地区、市街地区、沿岸地区が一つの市になった経緯があり、行政としても単一のマニュアルでは包括できない地域的な差異が大きい。
③　教頭は地域への窓口となる役割であるが、在校期間が短く（平均２年）、後任者に引き継ぐことが難しい。
等が挙げられる。
　そこで、児童生徒が安全・安心な学校生活を送ることのできる防災体制づくりについて、学校での取組や副校長・教頭の役割を明らかにすることで、それぞれの学校課題の解決につなぐ方向性を探った。
○地形の特徴から大きく三つに分けられる佐賀市は、それぞれの地域性にも特徴がみられる。したがって、教頭同士、情報交換をしていく中で災害に対する地域住民の認識の違いや防災体制の違いを改めて気づかされることになった。併せて、まだ実践段階ではないものの、今回の発表資料では詳しく触れていないが、以下のような今後の計画に取り入れていくべきことも挙がってきた。
〔防災体制の見直し〕
・土砂災害に関する地域防災無線と連携した情報発信体制の整備
・非常災害時の臨時休校等判断基準の作成と配付
〔防災訓練や研修会の取組〕
・地域防災訓練における児童の出番や役割の位置付け
・津波を想定した地域合同の防災訓練
〔防災教育〕
・地域の防災担当者と連携した防災教育の位置付け</td></tr>
<tr><td>研究部長より</td><td colspan="2">　今年の夏の台風の折には、防災体制づくりや避難所としての対応等様々な課題があることを痛感した。また、防災教育を進めるにあたって、教員が山間地区、市街地区、沿岸地区等の地域の特色を十分理解していない、知識としての指導はある程度行っているが、児童生徒の危機回避行動の育成を図るまでには至っていないということも課題にあがった。児童生徒が安全・安心な学校生活を送ることができるように今後、更に取組を進めていきたい。
（佐賀市立成章中学校　川原　文）</td></tr>
</table>